

黒川、梅田さん 府医療功労賞



「おっちゃんに『おおきに』と言われると、元気をもらえる」と話す梅田さん

訪問看護ステーションひなた所長
梅田 道子さん 66



「骨粗しょう症の治療に携わる人材の育成にも取り組みたい」と話す黒川さん

済生会吹田病院院長
黒川 正夫さん 64

長年にわたり地域医療の発展に貢献した人たちをたたえる「第44回府医療功労賞」（読売新聞社主催、厚生労働省、日本テレビ放送網後援）の受賞者2人が決まった。3日に読売新聞大阪本社で表彰式が行われる。

骨粗しょう症予防に力

1998年から済生会吹田病院（吹田市）に整形外科医として勤務し、現在は病院長を務める。

京都や滋賀で勤務医をしていた約30年前、骨折した高齢患者が退院後に寝たきりになるケースが多いことに気付いた。専門は肩関節だが、骨がもろくなる骨粗しょう症の予防の必要性を痛感し、力を注

いだ。「大学の研究では知り得なかったことに出会わせてくれた」と振り返る。

現在の病院では、関節リウマチや小児整形などと合わせて骨粗しょう症の診療体制を強化した。ただ、骨粗しょう症の2次検診受診率が伸び悩んでいたため、2005年に近隣の診療所医師らと「骨粗鬆症を語る会」を結成。医

療従事者向けの勉強会や患者対象の市民講座を開き、予防の必要性を啓発した。さらに、診療所と患者情報を共有するための診療計画書「地域連携パス」を導入し、患者の継続治療に役立てている。

「また改良の余地はある。高齢化が進むが、健康寿命を延ばし、充実した人生を送る手助けができれば」と意気込む。

ことが重要」と予防医療の観点から健康相談を始めた。

志を同じくする看護師らと12年、同区にNPO法人を設立。訪問看護ステーションの所長として単身高齢者らを支援、居場所作りや在宅での看取りも支援する。「釜ヶ崎のおっちゃんたちが健康に、よりよく生きていけるよう手を携えていきたい」と力を込める。

大阪市西成区の釜ヶ崎（あいりん地域）で2003年から路上生活者らへの健康相談を毎月続けている。現在、市内7か所で活動し、年間延べ約800人と関わる。「野宿から居宅へ、そして地域へ」を胸に困窮する一人ひとりと向き合い、病院へ連れて行き、地域で暮らせるよう支えてきた。同区の病院に勤務した16年

前、路上生活者600人に医療サービスの利用状況を聞き取り、「怠け者だからほめだしたんじゃない」との思いを強くした。同時に、入院中に回復しても、路上生活に戻れば、抜糸も糖尿病のインスリン投与もできない現状にがくぜんとした。大学へ編入して福祉を学び、「少しでも早いうちに医療や福祉につなげる

路上生活者 支え見守る

路上生活者 支え見守る

歌舞伎役者の文明開化

池田市栄本町の逸翁美術館で、明治期の芝居小屋に飾られた絵看

民主府連代表